

「愛知県のキュウリ産地のための脱臭化メチル栽培マニュアル」を作成

キュウリ緑斑モザイク病

非常に伝染力が強く、一度発生すると圃場全体が枯死することが多いウイルス病です。感染すると、生育が悪くなり、果実は奇形となり商品価値がなくなる非常に怖い病気です。



臭化メチル剤を使わない キュウリ栽培暦

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	～3月
土壌ウイルス	陰性	通常の管理	作付終了	太陽熱/土壤還元			定植	
土壌ウイルス診断	陽性	防除対策管理	作付終了	腐熟促進		太陽熱/土壤還元	定植	



ウイルスは土壌中の残さにいます。堆肥を入れて、腐熟を促進させることで残さごとウイルスを分解します。

生分解性ポットのまま定植することで、根の損傷を防ぎ、ウイルスの感染を低減します。



本研究は、実用技術開発事業「臭化メチル剤から完全に脱却した産地適合型栽培マニュアルの開発」で実施しました。

臭化メチル剤は効果の高い土壤消毒剤として広く用いられてきましたが、オゾン層破壊関連物質に指定されたことから、使用ができなくなりました。そこで、これまで臭化メチル剤でしか防除できなかった「キュウリ緑斑モザイク病」を臭化メチル剤を使わずに防除する技術を開

発し、マニュアルに取りまとめました。新しい防除法は①簡易な土壌中ウイルス診断、②土壌中の残さの腐熟促進、③定植時の生分解性ポットの使用の3技術を組み合わせたもので、本技術により環境にやさしいキュウリ栽培が可能となります。(環境基盤研究部・園芸研究部)

この栽培マニュアルは農業総合試験場HP (<http://www.pref.aichi.jp/0000057489.html>)からダウンロードできます。